

公害教育のESD化 ～大気汚染公害を題材として～

〒555-0013
大阪府大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル4階
電話:06-6475-8885
E-mail:webmaster@aozora.or.jp
http://aozora.or.jp/



ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発



教材を活用した授業風景(愛媛大学)

教材を活用した授業・研修

21回

当財団への来館者数の前年比

1.2倍

今年度計画の達成度

85%

活動の全体目標に対する達成度

90%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

他の公害被害地域でもこの教材を活用し、公害教育のESD化を進めたかったが、教材体験会への参加はなかった。そのため被害地域の大学教員などに協力いただいた。

■ 工夫した点

教材モニターが実践する際に、教材開発委員がオブザーブし、モニターおよび学習者の反応を観察して、発問を重視したファシリテーターガイド及び解説文を充実させた。

課題

これまでの公害教育は被害地域の問題として展開されることが多く、また被害状況など実際に起きた事実を「正しく」伝える知識偏重型の教育で、ESDとはほど遠く、広がりには欠ける。

目標

ESDとして公害教育のイメージが刷新される。環境教育・開発教育・人権教育・市民性教育に携わる人たちの間で公害教育の認知度が高まる。被害地以外でも実践される。

活動内容と成果

本活動で、西淀川大気汚染公害を題材にした参加型教材を開発してきたが、今年度はその教材を活用するモニターを募集した。結果、全国の大学教員が7校の授業で教材を活用し参加した学生は、公害の被害への構造的な理解や、解決に向けて市民が行動を起こすことの重要性についての理解を深めた。

また公害の経験から学ぶことは市民性教育や人権教育につながるということを打ち出し、研修パンフレット「大阪の大気汚染公害から学ぶ」にも掲載した。今年度は人権(3回)・市民性(2回)・国際理解(2回)と、以前にはなかった分野の研修を行った。



ベラルーシで公害フォトランゲージを実施

全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動で、環境教育だけでなく、開発教育・人権教育・市民性教育などの分野の教員・研究者に「公害の経験から学ぶ」ことへの関心を広げ、ESDとして公害教育を一般化するという目的は一定の成果を上げた。これまで公害被害地域以外ではあまり行われていなかった公害を取り上げた教育が、参加型教材によって地域を限定せずに行われる可能性を広げた。当財団への研修依頼も、多様な分野の広がりをみせている。



ロールプレイ教材体験会の様子(東京)

今後の展望

持続可能な社会づくりのためには環境・社会(人権)・経済を統合的に捉える必要がある。本活動では「公害の経験から学ぶ」意義を発信することで、多様な分野の教員・研究者とつながることができた。今後はそうした人たちが実践・研究領域を超えてつながる機会をつくり、ESDを深化させていきたい。その際、企業や行政セクター、また他の公害被害地域も巻き込み、広く公害教育のESD化が進むよう働きかけたい。